

シーン別

安全チェックシート

4つのシーンから、サポートの内容にあったシーンを選び、各項目の□に✓を入れましょう。

シーン1 会員紹介後～事前打ち合わせまでにおねがい会員が行うこと

シーン2 事前打ち合わせ

シーン3 サポート当日のチェックリスト

シーン4 日頃からサポートに備えるチェックリスト

シーン1 会員紹介後～事前打ち合わせまでにサポートを依頼したおねがい会員が行うこと

●事前打ち合わせの日程調整までに確認すること

まかせて会員に電話し、互いの都合のよい日で事前打ち合わせの日程を決める。

→おねがい会員から、まかせて会員に電話をかけ、互いの都合の良い日時で調整しましょう。

※子どもも同席し、30分以内で行いましょう。



送迎サポートの場合、送迎先(園・学校・放課後児童会・おけいこ先)に、ファミサポを利用することを伝える。

→まかせて会員が先生と顔合わせが必要な場合は、送迎先とまかせて会員が、おねがい会員同席で顔合わせします。日程調整はおねがい会員が行い、事前打ち合わせの日程調整と同時に進めてください。また、サポート当日、先生からの連絡事項をおねがい会員の代わりに聞くことはできません。先生にも、まかせて会員に伝言を頼まないように伝えておいてください。



●感染症対策の確認 ※安全なサポートのためにご協力をお願いします。

子育て情報サイトびっぴ「ファミサポ会員用の様式」にある“サポート実施のめやす”を見て、感染症等に関連した利用中止や自粛の基準を確認する。

ファミサポ会員用の様式はこちら▶



シーン2

事前打ち合わせ

～事前打ち合わせしていないことは当日できないので、しっかり確認しましょう～

●サポート全般について

- 「事前打ち合わせ票」の各項目について、伝えておきたいこと・気になることについて確認する。
※特にアレルギーや飲食物については具体的に確認してください。
- 緊急連絡先の電話番号を複数聞いておく。また、連絡先の名称も確認する。
※「緊急連絡カード」には最新情報が書かれているか確認しましょう。 緊急連絡カードのダウンロードはこちらから▶ 
- サポートに必要な物について、誰が何を用意するか確認する。
- ゲーム・テレビなど、しても良い・して欲しくないことや、希望されてもできないことについて、具体的に伝える。
- 安全性に注意しておもちゃを選び、壊れないか点検する。
- 預かり中に過ごす部屋を確認する。
- 持参した食事やおやつを食べさせる場合、量の確認や、残した時の対応について確認する。
- 安全にサポートするために、子どもと共にサポート中の約束をする。
(例)決まった部屋以外には勝手に入らない、シートベルトをつける など
- 有料駐車場代、タクシー代、食事代など、実費が発生するサポートの場合はおおよその金額を話し合っておく。
- チャイルドシート・ジュニアシートの貸し借りがある場合は、受け渡し方法やタイミング、シートの設置方法、子どもの体格に合っているかなど、確認する。
- 送迎の経路上に、危険な箇所があったら伝える。
- 車で送迎する場合、送迎先の駐車時のルールを確認する。
- 利用料の精算日を決める。
※精算は会員同士で直接、現金で支払います。月末までに精算してください(キャンセル料金も同様)。
- 今後、直接サポートを約束した場合、おねがい会員がセンターへ報告する。
※センターが把握していないサポートは保険が適用されないため、必ず報告してください。

●(まかせて会員が用意する)食事や離乳食、おやつの提供がある場合

- アレルギーや、普段食べている食材、食べたことのない食材を確認し、食べる量を相談する。
- 市販の食べ物を購入する時は、子どもが普段から食べている物を用意する。
- 窒息・誤飲防止のため、食べ物を用意する時は、大きさや固さを工夫する。

●急な変更 zu 備えて

- サポート時間がずれる可能性があるか伝え、時間がずれる場合は、まかせて会員が対応できるか確認する。

例) 学校が特別日課で下校時刻が変わることがある(放課後児童会に入っていない場合) など

- 屋外の習い事への送迎で、当日の天気により中止になる場合はあらかじめ伝え、キャンセルの場合は、当日何時頃までに連絡ができるか確認をしておく。

※天候により習い事がお休みになる場合もキャンセル料金が発生します。

●サポート中の災害に備えて

- 火災や地震の時の避難場所をお互い伝える。また、子どもの受け渡し方法や避難場所、避難経路を確認する。

- サポート当日、サポートが危険になりそうな天候の時や避難情報によっては会員同士連絡を取り合い、場合によってはサポートを中止する。

- 「119番」で救急車を呼ぶ際に聞かれる、住所や目印の建物を答られるよう、あらかじめ想定しておく。

●あなたのオリジナルチェック項目

-
-



参考資料

チャイルドシート

送迎の援助活動を依頼する場合、チャイルドシートは原則おねがい会員が用意します。

2008年から後部座席でもシートベルトの着用が義務付けられました。チャイルドシートを卒業してもシートベルトは着用しなければなりません。チャイルドシートが法律で義務付けられているのは6歳未満の子どもですが、車のシートベルトが着用できるのは、身長135~140cm(小学5年生くらい)に達してからです。子どもが6歳を過ぎて、135~140cmに達するまでの間はチャイルドシート(学童用)を使用しましょう。

参考:国土交通省ホームページ

種類	乳幼児用	幼児用	学童用
体重	13Kg未満	9~18Kg	15~36Kg
身長	70cm以下	65~100cm	135cm以下
年齢	年齢新生児~1歳くらい	1~4歳くらい	4~10歳くらい
特長	乳幼児期は首がすわっていないため寝かせるタイプ。後ろ向きに使用する「シートタイプ」と横向きに使用する「ベッドタイプ」がある。	幼児の首がすわり、自身で座れることが使い始めの目安。「前向きシート」として使用。	「座席を挙げて背の高さを補う」「腰ベルトの位置を子どもの臀部に合わせる」ことによって大人用の座席ベルトが使えるようにする。*背もたれ付きタイプ・ブースタータイプ

シーン3

サポート当日のチェックリスト ~子どもの年代・発達状況により配慮しましょう~

●送迎サポートの場合

- チャイルドシート・ジュニアシートは、年齢や体格にあった物を後部座席に取り付け、グラグラしないか確認する。シートが不要でも、シートベルトは必ず使用するよう子どもにも確認する。
※チャイルドシートやシートベルトは普段から子どもが慣れているとサポートがスムーズです。
- 車のドアや窓の開け閉めは大人が行い、閉める時は、子どもが顔や手足を出していないか直接見て確認する。
※車にロック機能があれば使用しましょう。(特に風が強い日は手挟みがないように気をつけましょう)
- 子どもと道路を歩く時は、大人が車道側を歩き、手をつないで歩く。
- サポート中は会員証を所持し、求められたら提示する。
※会員証を紛失した場合は、写真を用意していただければ再発行します。
- 車の中に子どもだけでいる時間を作らない。
- 感染症対策のため、できるだけ車内の換気を行う。
※カーエアコンの「外気モード」を利用すると効果的です。

●預かりサポートの場合

- 受け渡し時に、検温や健康観察を行う(発熱がないか、子どもの体調や顔色、普段と違う所がないか確認する)。
- 受け渡し時に、預かり中に必要な物が全て揃っているか確認する。
- 子どもの荷物の中に「緊急連絡カード」が入っているか確認する。
- 子どもの服に、紐や引っかかりそうなタグなど付いている場合は、預かりの際に引っかからないよう配慮する。
- 食事は座って食べる。また、誤飲防止のため子どもを驚かせる、体にぶつかるなどしないように気をつける。

●その他

- サポート料金はつり銭のないように用意する。
※サポート時間が変わると、料金も変わる場合があります。万一、サポートの時間が変わる場合に備えて、緊急連絡方法を確認し、できれば念のため電話番号を登録しておきましょう。

シーン4

日頃からサポートに備えるチェックリスト ~いつでもサポートできるように日頃備えておくと安心です~

●預かるための準備

- 階段や段差がある場合、転落・転倒防止対策をしている。
- ベランダや窓のそばに、踏み台となるようなものは置いていない。
- ドアや家具の引き出しなど、指をはさまないような対策をしている。
- 暖房器具(ストーブ、こたつなど)でやけどをしないような対策をしている。
- ポットや炊飯器、トースター、鍋などは子どもの手の届かないところに置いている。
- 預かり中は、テーブルクロスの使用は控えている。
- 下記のものは、子どもの手が届かないところに置いている。
- ・たばこ ・薬 ・洗剤 ・化粧品 ・硬貨 ・貴重品 ・ピアスなどの小物 ・ボタン電池 ・マッチ
 - ・ライター ・ビニール袋やラップ ・あめ玉 ・ピーナッツ ・ハサミや包丁などの刃物 ・壊れやすい物
 - ・アイロン ・トイレトペーパーの芯(直径 3.9cm)を通るようなもの 等
- 机・食器棚などの家具の角やふちの鋭い部分には、できる範囲でカバーを付けるなど、ケガの予防をしている。
- 扇風機の羽に子どもが触れないような対策をしている。
- ブラインドのひもは子どもの手が届かない高さでくくっている。
- 浴槽や洗濯機・バケツなどに水が溜まっている場合は、子どもがその場所へひとりで入れないような対策をしている。
- ペット(犬・猫など)に別室にいてもらう、またはゲージに入ってもらするなど、万が一にもトラブルが起きないような工夫をしている。
- 部屋の換気を適切に行い温度・湿度を確認できるように温湿度計などを置いている。
- 預かり中に家事を行わなくてもよいように、あらかじめ準備しておく。

参考資料

乳幼児の不慮の事故を防ぐための5つのポイント

●窒息 ●誤飲 ●転落・転倒 ●おぼれ ●やけど



※相互援助活動の手引き 活動にあたって安全への対応> 参照



●送迎サポートのための準備

- 車で送迎をする場合、送迎に使用する車の車検有効期間と、任意保険の期限や内容を確認している。

※ファミサポ補償保険に、自動車保険は組み込まれていません。

自賠責保険の有効期限		
年	月	日

任意保険の満期日		
年	月	日

- チャイルドシート・ジュニアシートを持っている場合は、壊れないか点検している。

- 自転車で送迎をする場合、自転車損害賠償保険の期限や内容を確認している。

自転車保険の満期日		
年	月	日

- 自転車用のチャイルドシートや子ども用のヘルメットを持っている場合は、壊れないか点検している。

※自転車では、6歳以上の子どもを乗せて送迎できません。

●乳児(おおむね0～2歳)の預かりの注意点

- 子どもを強く揺さぶったり、腕や足を強く引っ張らない。

- 子どもを抱いている時は、熱い物の飲食は控える。

- 子どもを寝かせる時は、固めの敷布団を準備する。

※ぬいぐるみやタオルなど、子どもの口や鼻をふさぐものは置かないようにしましょう。

- 医師の診断があるなど特別な理由がない限り、寝かせる時は仰向けに寝かせ、うつぶせ寝は避ける。

- ソファやベッドなどの高い所に寝かせた時は、転落防止策を取り、目を離さない。

- 子どもが寝たら、呼吸・顔色・寝方・嘔吐していないかをチェックする。(3～5分おき)

- 作り置いたミルクや、飲み残したミルクを後から飲ませない。

- おもちゃは誤飲しない大きさで、壊れないか点検している。トイレトペーパーの芯(直径3.9cm)を通るような大きさのものは使用しない。

- ミニトマトやブドウ位の大きさの食べ物は、誤飲しないよう小さく切る。